

平成 21 年 5 月 15 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18592124

研究課題名 (和文) ブラキシズム存在下における各顎口腔疾病への枝分かれ要因に関する前向きコホート研究

研究課題名 (英文) Effect of bruxism and patients' habit on orofacial disease

研究代表者

西川 悟郎 (NISHIGAWA GOROU)

岡山大学・医学部・歯学部附属病院・講師

研究者番号：00172635

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：歯学・補綴系歯学

キーワード：ブラキシズム, 顎関節症, アンケート, 咬合, 顎顔面疼痛, リコール

1. 研究計画の概要

(1) 研究代表者らは「ブラキシズムによる異常な力を顎口腔系のどの部分が負担するかによって各顎口腔疾病の発現が決定する」という仮説を立て、これまでも数々の研究や調査を行ってきた。分かりやすく説明すると、ブラキシズムに起因する力を歯周組織が破壊されることで代償した場合には咬合性外傷が生じ、歯質の部分で代償した場合には咬耗が生じ、それらの代償が上手く行かなかった場合には顎関節症や顎顔面疼痛が生じ、また力の分散が上手く行ったケースでは無症状に経過するという仮説である。

(2) 本研究の目的はこの仮説を証明することであり、さらにブラキシズム存在下における各顎口腔疾病の枝分かれ要因の確定を目標と定めている。各顎口腔疾病への枝分かれ要因を確定するための前向きコホート研究を行うものである。

(3) 本研究はボランティアを被験者として募り、各顎口腔疾病の危険因子 (アンケートによる生活習慣, 精神的ストレス状態, 全身症状, 顎関節症状等の記録, 術者による口腔内の診査を行うものである。更に一年ごとにリコールを行い、各データを採取後に統計処理を行うものである。

2. 研究の進捗状況

平成 18 年度に本学の疫学研究倫理審査委員会に承認された研究計画にしたがい、平成 19 年度に同意の得られた調査を行った被験者 26 名 (男性 10 名, 女性 16 名) について 1 年後 (2 回目: 平成 20 年度分) の調査を行った。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

調査が出来た被験者は平成 19 年度は 20 名 (男性 8 名, 女性 12 名) であり, 6 名のドロップアウトが認められた。さらに平成 20 年度に新たに 36 名の被験者 (男性 14 名, 女性 22 名) からの同意書, アンケート用紙調査の回収 (1 回目) を終えた。一定の被験者数を得ることを危惧していたが, 幸い一応の和のボランティアを募ることが出来た。現在新たに追加収集されたデータの集計と分析を行っているものである。

4. 今後の研究の推進方策

平成 19 および 20 年度の被験者について追跡アンケート調査を行い, 得られたデータについて総合的に統計学的分析を行う予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

① Nishigawa G, Maruo Y, Irie M, et al. Ultrasonic cleaning of silica-coated zirconia influences bond strength between zirconia and resin luting material. Dental Materials Journal. 27, 842-848, 2008. 査読有。

② Kodama N, Nishigawa G, Maruo Y, et al. Effects of experimental palatal appliances on oral senses. Prosthodontic Research & Practice, 7,

186-188, 2008. 査読有.

- ③Nishigawa G, Maruo Y, Oka M, et al. Does electrodermal response represent severity of speech disability in the maxillectomy patients? Prosthodontic Research & Practice, 7, 165-167, 2008. 査読有.

〔学会発表〕(計 3 件)

- ①長谷川浩一, Ani Ratnasari, 西川悟郎, 他. 咀嚼の進行と咀嚼の側性の関係に関する研究. 平成 20 年度(社)日本補綴歯科学会 九州・中国・四国支部 合同学術大会, 平成 20 年 8 月 30 日, 別府市(大分).
- ②Nishigawa, G., Maruo, Y., Oka, et al. Theoretical study for pressure exerted on impression material under impression tray. Second International Conference on Mechanics of Biomaterials & Tissues, December 9-13, 2007, Lihue, Hawai' i.
- ③Nishigawa, G, Maruo, Y, Oka M, et al. Does Electrodermal Response Represent Severity of Speech Disability? The 2nd Joint Meeting of the Japan Prosthodontic Society and the Greater New York Academy of Prosthodontics, October 20-21, 2007, Tokyo Fashion Town.